



日本中世史終焉の場
国指定史跡

九戸城跡

- ゴミは必ずお持ち帰り下さい。
- 芝生内での犬の散歩はご遠慮下さい。
- 環境保護・保全にご理解とご協力を。

二戸市埋蔵文化財センター

〒028-6101

岩手県二戸市福岡字八幡下11-1

TEL 0195-23-8020

FAX 0195-23-8044

政実無残。 太閤仕置の 大乱に散る。

◆秀吉の全国統一完了——豊臣秀吉は、奥州再仕置（九戸征伐）と称して全国に出動命令を出した。そこには総大将に豊臣秀次以下、徳川家康・伊達政宗・石田三成・蒲生氏郷・上杉景勝・浅野長政・井伊直政・大谷吉継・堀尾吉晴・佐竹義重など、錚々たる戦国武将の名が連ねられていた。

南部の二大勢力

鎌倉時代の初めに発祥した奥州南部氏は、26代信直が盛岡藩を確立し、幕末には陸奥10カ郡・20万石を領す大名でした。天正10年（1582）、24代当主晴政が死去したことで、娘婿の田子信直支持派と晴政の遺子晴継（25代）を擁護する九戸派が対立、その後、晴継も13歳で謎の死を遂げ、世継ぎ騒動は混迷の度合いを深めていきます。

結局は信直が26代目を継ぎ決着しますが、この嫡流と傍流に関しては、永禄6年（1563）の室町幕府「諸役人附」の「関東衆」の中に「南部大膳亮」と「九戸五郎」が併記されていることから、南部氏と九戸氏は同格の別族であるという説や、併記は同族並立状態が依然として続いていた北奥羽の様相を反映したものとする説もあります。要するにこの時代、南部は二大勢力が対立する時代でした。

6万対5千

天正19年（1591）3月、九戸政実がついに挙兵し、南部を二分する戦いに突入します。豊臣秀吉の重臣



前田利家を通じ、自らが南部家本宗であることの確認の起請文を送っていた信直に対し、秀吉は領地安堵の書状を与えて26代当主を公認、緒戦は九戸方が優勢でしたが徐々に形勢が逆転し、政実は天下人に背く謀反人として奥州再仕置軍と戦うことになりました。

9月2日、馬淵川流域をはさんで、一説には再仕置の上方軍勢6万に、九戸籠城軍は約5千人が対峙、熾烈な攻防が始まりました。

偽りの和睦

9月4日、難攻不落の城に苦戦を強いられた上方軍は謀略を巡らせ、九戸氏の菩提寺長興寺の和尚（一説には4代目住職薩天）を使者にたてました。持たせた手紙の中で政実の武勇を讃え、女子供の助命を条件に降伏を説得させました。

謀略とは知らぬ和尚と、一人でも多く一族郎党を救おうと和睦に応じた政実でしたが、開門した城内には火が放たれ、城内の者は撫切りにされたと伝えられています。また、政実と7人の重臣は豊臣秀次の待つ三ノ迫（宮城県栗原市）で斬首されました。

Summary

The ruins of Kunohe castle is an old battlefield where Hideyoshi Toyotomi had completed generalization of Japan. After the successful siege of this castle, the medieval period had come to an end. Just after the war, Hideyoshi ordered his men to improve this castle, and gave it to Nobunao Nambu, one of his men, a Lord of this area.

兵共が夢の跡。 発掘調査による新事実。

畑とうっそうとした樹木の下に、
中世平山城として
東北随一の規模を誇る
九戸城が眠っていた。

中世城郭から近世城郭へ

昭和10年（1935）に国の史跡に指定された九戸城は2つの時代が併存しています。まずは九戸光政の代の頃（明応年間=1492～1501）に築城されたといわれる中世平山城の九戸城で、本丸・二ノ丸・三ノ丸を除く部分が九戸城そのままの姿と考えられます。九戸城落城後、上方軍によって普請された本丸・二ノ丸・松ノ丸を加えた現在の姿が近世城郭、福岡城の姿です。

九戸城は落城後再普請されて福岡城と改名されましたが、地元では今もって九戸城と呼んでいます。

本丸・二ノ丸に眠る九戸城

平成元年度（1989）から開始された九戸城の史跡環境整備事業により、落城直後、秀吉の命によって蒲生氏郷らにより現在の本丸跡・二ノ丸跡を中心に安土桃山様式の城に築き直されたことが分かりました。その本丸整地層の断面には焼土や木炭、火を受けた生活遺物や火縄銃弾丸など戦禍の痕跡が見られ、さらにその下位に地上では観察できない堀跡や溝跡などの九戸城時代の遺構が残っていることが明らかになりました。

平成11年（1999）には九戸城時代の遺構（二ノ丸跡）から竪穴遺構が検出され、そこから漆塗りの工具として用いられたと思われる漆の付着した貝殻や、漆に金泥を塗り込めた鎧の札（さね）など、漆製品が一括して出土しました。城内には武具を仕立てる工房があったと考えられます。

四肢骨の刀創と撫切り

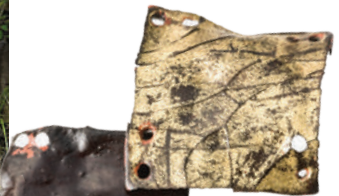
平成7年（1995）、二ノ丸大手門近くで九戸城落城直後に掘られたと思われる粗末な墓穴から、首のない人骨十数体分が発見されました。これらには無数の殺傷痕や刺突痕があり、平成20年（2008）に東北大学医学部で再調査の結果、女性も含まれていることが分かりました。地元で伝わる伝承や後世の軍談記にある撫切りの犠牲者と考えられています。



九戸城跡（平成27年撮影）



本丸隅櫓（すみやぐら）
跡脇石垣



二ノ丸跡出土遺物、漆塗りの上に
金泥を使用した鎧の札（さね）



大腿骨上部の刀創
（東北大学出版局『骨が語る
奥州戦国九戸落城』より転載）



本丸跡出土遺物の火縄銃弾丸鋳型

風渡る、眠れる古城。 [九戸城跡散策ガイド]



①土井晩翠の歌碑

昭和14年（1939）、リンゴ狩りに訪れた晩翠が九戸城の悲話を聞き、書き残した「荒城の月」を刻んだ碑です。



②本丸の石垣

東北最古といわれる城郭の石垣は、天正19年（1591）の落城直後に築かれ、蒲生氏郷をはじめとする大名の配下で穴太衆（あのをしゅう）という石垣構築専門集団によるものと考えられています。



③本丸隅櫓跡

敵情遠望や射撃のために設けられた隅櫓のあった場所で、海拔139mと最も標高が高く眺望が効きます。登ると上方軍の布陣した山並みも望めます。当時は数間の高さの櫓があった場所です。



④本丸虎口（こぐち）跡

天正時代の様式を良く残したクラック状の出入口です。春には桜花が咲き乱れる景観になります。



⑤二ノ丸跡

現在見える姿は本丸と共に福岡城の姿です。九戸城時代にも一部、土塁が構築されていた可能性があります。また、東側では堅穴式の工房や大型の建物が立ち並んでいた区画が見つかっています。



⑥九戸城エントランス広場から本丸を望む

エントランス広場の東側には土塁と堀跡があり、その先に本丸を望むことができます。また、エントランス広場には休憩できるガイドハウスがあります。この広場を起点に、本丸・二ノ丸の下方にある腰曲輪を抜け、城跡を広く散策することができます。



史跡九戸城跡及び周辺案内図



⑦岩谷観音堂

城の北西隅、白鳥川と馬淵川の合流点を望む断崖に造営された堂宇で、奥州三十三観音巡りの札所でもあります。傍らに九戸の乱の戦没者鎮魂のため造立され、その後洪水で流失した「千補陀堂」（せんぼだどう）の建立碑があります。

九戸城ボランティアガイドの会活動日

- *4月中旬～11月の土・日・祝日●10:00～15:00
(ガイドハウスは4月中旬～11月の平日も開館します。)
- *ガイド料無料
- *連絡先 (平日のガイド予約、団体の場合のガイド予約など)
二戸市観光協会●0195-23-3641
二戸駅観光案内所●0195-22-4394

哀涙の政実を訪ねて。

政実関連史跡を巡る



九戸神社（九戸村）

承和9年（842）の創建と伝えられる九戸地方の総鎮守。九戸家代々が戦勝を祈願した神社として知られています。



政実公の首塚（九戸村）

三ノ迫（宮城県栗原市）で斬首となった政実公の首級を、家臣がひそかに持ち帰り、鎮めたとして知られています。



九戸古梅園（二戸市）

政実遺愛の梅園と伝えられていますが、他に政実公のお姫さまが逃れるところを敵に見つかり自害した折、侍女に形見の木として植えさせたともいわれ、六弁の梅（ろくぶのうめ）が咲く老梅が残っています。



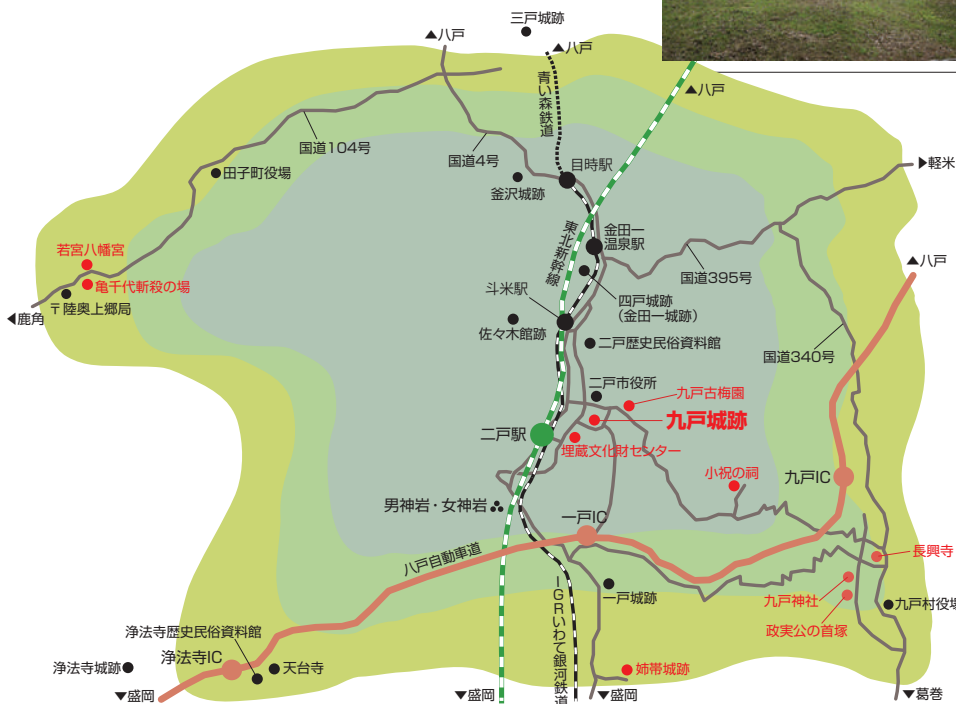
小祝の祠（二戸市）

九戸方面へ向かい白鳥の「小祝」バス停から左に入った所に張り出した岩があり、その岩陰に小さな祠が3つ並んでいます。山の神ともいわれますが、地元では政実公のお姫さまを祭った祠と伝えられています。



姉帯城跡（一戸町）

九戸氏の一族である姉帯氏の居館。馬淵川北側の50m以上の断崖上に築かれた典型的な山城ですが、天正19年、九戸城攻略の前哨戦で落城しました。



若宮八幡宮（青森県田子町）

九戸城落城時、13歳と伝えられる政実の一子亀千代には生存説・斬殺説と共にゆかりの地も数カ所伝えられており、この若宮八幡宮は斬殺された亀千代を祭神としています。



長興寺（九戸村）

永正元年（1504）開山の古刹で、かつてはこの地域一体の文化の中心であるほか、九戸氏代々の菩提寺としても知られます。境内にある村指定の大イチョウは、政実が出陣の時にお手植えしたものと伝えられています。



亀千代斬殺の場（青森県田子町）

亀千代斬殺場所には三ノ迫、村松の蒲生陣内のほか、「田子照夫家文書」や伝承に田子町佐羽内が挙げられています。